

2603



内規官爵位勲等性質ノ區分第一條ニ付

官等ニ從テ受ク可キ光榮ハ職務ニ関セサル時
間ニ於テモ之ヲ有スルヲ得可キノ意見

一 官吏ノ事務ヲ處辨スル權利ハ職務ニ於ル時限ニ止ル
ト雖モ其官等ニ從テ光榮ヲ受ク可キ權利ハ法律
ヲ以テ禁セラレタル場合ヲ除クノ外孰レノ時ニ於テ
モ在官中ハ消滅スルコト無ル可シ

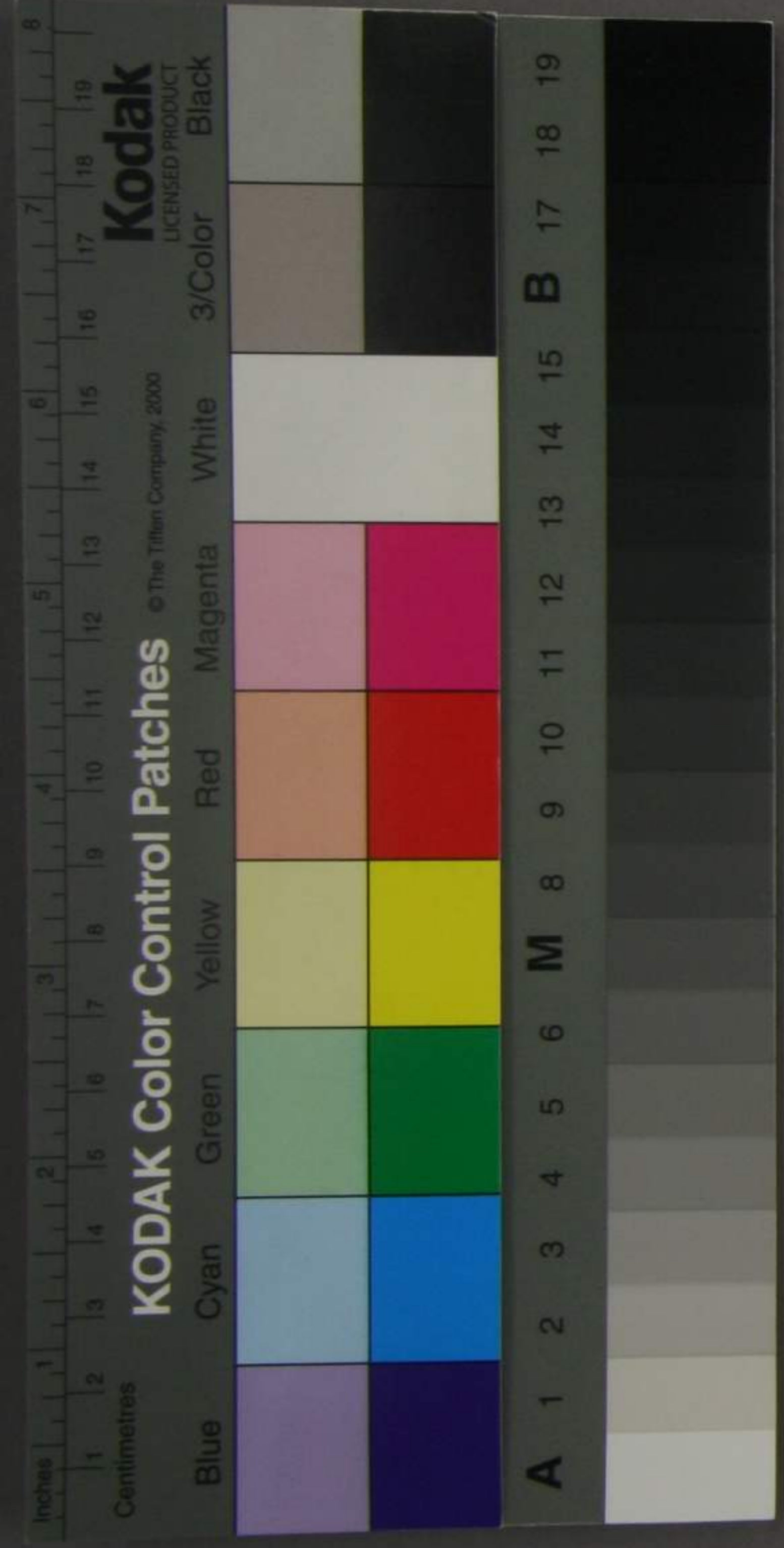
法律ヲ以テ禁スルトハ明治六年布告金銀貸借
其他私用ノ証文類ハ官名ヲ記載シ或ハ官名ヲ
刻シタル印章ヲ相用候儀自今令嚴禁候事
トアル類

二 官等ニ從テ光榮ヲ有スルノ權利ハ左ノ數原因ヨリ成立
タルカ如シ

大正十一年四月
限候爵邸寄附

イロヨロ
別冊

3749



其一上古未々官位ノ制度等アテサル時ト雖モ其主
領臣僕ノ中大切ノ事ヲ命シ置タル者ハ之ヲ愛シ
之ヲ近ク平時宴會等ノ席ニ於テモ自己ノ側即
チ上席ニ坐セシメ其以下次第ニ席ヲ與ル等ノ事
數度ニ及ヘハ自ラ慣例トナリ人モコノ慣例ヲ見
テ其人々ニ對シ自ラ愛敬ノ心ニ輕重ヲ生スル事
但是ハ無名ノ位階トモ云可ク即後世位階ノ起
原ナル可シト雖モ其本ハ主領ヨリ命シタル事ノ
細大ニヨリ親疎ノ分自ラ起レルナリ又未開ノ
時ニ於テハ君主生殺ノ權ヲ恣ニシ之カ股肱タル
者モ如何程カ暴權ヲ分與セラレテ威福ヲ擅
ニセシヨリ人民之ニ畏服シ尊敬ノ形ヲ以テ之ニ
事ヘシニ相違無ル可シト雖モ吾上古ノ歴史ニ

於テハ是ヲ如キ痕迹ヲ見ル事甚タ少シ却テ中古
以來近時ニ至ル迄此醜惡スヘキ形狀ヲ存ス是
レ固ヨリ暴悞ト卑屈トノ相因テ成レル風俗ナ
レハ取テ証據トナスニ足ラサルナリ

其二草創ノ時才能德行ノ優レタル者多ク社會ノ
事務ヲ執ルニヨリ世人之ヲ尊敬スルノ常習ヲナシ
後ニハ賢不肖ニ拘ラス官吏ハ應分ノ尊敬ヲ受
クヘキ地位ト定リタル事

其三屬官ノ長官ニ恭順ナルヘキハ普通ノ道理ニ
テ官衙ヲ退テ私ノ交際ヲナスニ當リテモ其長
官若クハ長官ニ均キ上官ニ對シテハ禮貌ヲ加フ
ル事

其四世運ノ開進ニ從ヒ人民タルモノ官吏ハ君主ヲ

三

助ケ理世安民ノ政ヲ賛スル者タルヲ以テ若シ之ヲ輕蔑スレハ即チ君主ノ威權ヲ損シ其統御ノカヲ失スルヨリ從テ自己ノ不利ナナルノ道理ヲ了解シ誠實ニ之ヲ愛敬スルヨリ風俗ヲオス事

第二條ニ於テ原由ト思考スルノ當否如何ニ論ナク今時ノ制度ニ於テハ官吏ハ職務外ニ於テ常人ニ殊ナル義務アリ則之ニ對スル權利ナカル可ラス所論義務左ノ如シ

其一素行ヲ修メ体面ヲ潔クスヘキ事

其二家族ト雖モ分藉別居スルニ非レハ高貴ノ營業ヲ為スヲ得サル事

四
今時ノ制度ハ官吏ノ職務ニ関セサル時間ニ於テモ官等ニ從テ相當ノ光榮ヲ與ヘラレタリ

其一陸海軍及巡查敬礼式ハソノ敬礼ヲ受ル者ノ職務ニ於ル場合ト否トヲ問ハサルナリ

其二改定律例勅奏任官ヲ殺傷スルノ律アリ公務ニ在ラサル場合ニ於テ私怨ヲ以テ殺傷スルモ此律ニ科セラル然レハ殺傷ノ害ヲ防禦スルニ於テ常人ニ比シ幾分ノ厚キ保庇ヲ受ルナリ毆官吏罵官吏等ノ律亦同シ

其三勅奏任官ハ罪ヲ犯スモ其事由ヲ奏請スルニ非レハ推問スルヲ得ス巡查違式ノ罪ヲ認タルモ奏任官以上タルノ分明ナルニ於テハ直ニ勾引スルヲ得サル亦同シ

其四官吏私罪ヲ犯シタルモ笞杖ニ該ル者贖例ニ從フヲ聽ス

其五三職ハ公私ノ別ナク往来ニ守衛兵ヲ賜ル事

其六故大久保参議ニ贈官ノ恩典アリ官吏職務ニ関セサル時ニ於テハ官職ニ属スル光荣ヲ有スルヲ能ハサル義ナラハ既ニ薨シタル人ニ追贈ノ恩典アルモ其誥無ル可シエノ恩典ハ職務ニ関セサル時ト雖モ官職ニ属スル光荣ハ他人ヲシテ之ヲ尊敬セシムルニ足ルノ確証ナリ

五 位階ハ官ニ由テ受ルモ官ヲ解キタル後尚之ヲ帶ルヲ得ルモノニテ性質自ラ殊ナリ故ニ位階ニ属スル光荣ヲ指テ直ニ官吏職務ニ関セサル時ノ光荣ナリトハ云可ラス

六 以上數條ノ如ク官吏ハ職務ニ関セサル時尚其官

等ニ依テ光荣ヲ有スルノ權アリト雖モ陸海軍巡查等敬礼ノ成式アル者ニ向テノ外不敬ナル者ニ對シテ訴訟ヲナスノ法ナシ只我ヨリ下等ナル者平等或ハ上等ヨリスルノ礼遇ヲ以テ交際ヲナサントスル時之ヲ拒ムヲ得ヘキノミ

七 門牌墓碑名刺著書題跋類ノ記名書画ノ落款其外是ノ如キ類ニ於テ官名ヲ用ルハ法ハ禁スル所ニ非ス是亦官職ノ榮譽ヲ姓名ニ冠ラシムル一例ナリ

八 朝儀ニ用ユ可キ大礼服ヲ着シテ吉凶ノ礼ニ會スルヲ得ルモ亦官吏有ツ所ノ特例ナリ

